

新聞を身近なものとしてとらえよう

～表現力を高める子どもをめざして～

指定校 1 年次 下條村立下條小学校

近松 志津夫 藤巻 伸行 柏原 恵一 原 久美 大峽 広和

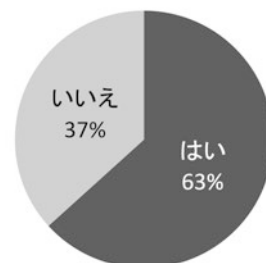
I 本校の新聞活用 (NIE) の現状

本校は全校児童 255 名、13 学級の規模である。今年度の学校教育目標、「自ら学ぶ子、心豊かな子、健やかな子」のもと、「友と学びあい、表現力を高める子どもを育てる授業をめざして」を全校研究テーマとして掲げ、社会科、NIE、学力向上の 3 グループで研究を進めている。

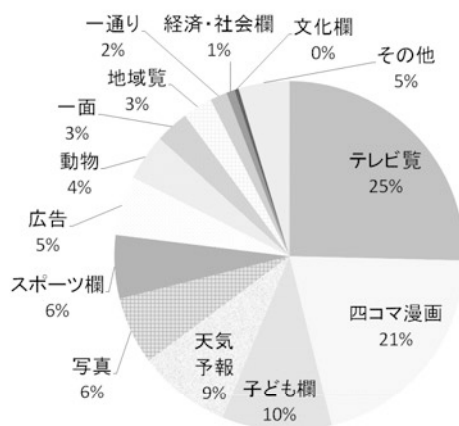
NIE グループで保護者に新聞購読等のアンケートをとったところ、63 % が新聞を購読していることが分かった。37 % の家庭においては新聞を目にすることができず身近に感じていないことが分かった。また、新聞を購読している家庭に、児童が見ている紙面のアンケートをとったところ、テレビ覧、4 コマ漫画、子ども欄、天気予報が圧倒的に多く、あまり記事には興味が無いことも分かった。

そこで、「新聞を身近なものとしてとらえよう」という研究テーマを据え、全校研究テーマの中にある、表現力を高める子どもに育って欲しいと願うサブテーマに設定した。表現力を高めるといふ観点から児童と新聞の関わり方を考えてみると、社会見学や旅行記などのまとめをする時に、どう書いたらいいのだろうか、題名は何にしたらいいのだろうかと迷ってしまかなか書くことのできない児童がたくさんいる。そんな時に、新聞形式でまとめるとスムーズに書くことができる。それはなぜかと考えると見出しを考えることで内容の一番大切なことは何か考え、決められた範囲に記事を書くことで自然に要約(まとめる力)しているのではないだろうか。それは、まさに表現力と言ってもいいのではないだろうか。しかしながら、新聞は書き手がまとめただけでは、読者に伝えるという最も大切なことが抜けてしまう。だから、ある程度まとめる力が付いた後、今度は読者の立場になって、見出しの言葉やレイアウト、絵や写真を考えることでより魅力ある新聞を作ることで、一層の表現力がつくのではないかと考えている。

購読状況



見ている紙面(全校)



II 実践のねらい

1 新聞に興味関心を持たせる

本校児童の状況をふまえ、まず新聞に興味関心を持たせることが大切だと考えた。新聞に触れる機会を増やし、各学年の発達段階に応じた活用を模索する。

2 新聞づくりのコツを学ぶ

信濃毎日新聞社の「出前授業：新聞づくり」を活用し、新聞づくりのコツを教えて頂くことにより新聞づくりに意欲的になると期待できる。

3 新聞づくりを通して、まとめる力をつける。

社会見学や遠足などのまとめを新聞づくりにすることで、調べる力、まとめる力、伝えるための文章力を伸ばすことが期待できる。



III 研究の概要

1 児童が新聞に触れる機会をつくり興味関心を持たせる

本年度は「朝日小学生新聞」「毎日小学生新聞」「読賣新聞」「日経新聞」「産経新聞」「信濃毎日新聞」「中日新聞」の 7 紙を 9 月から 3 月まで、月に 4 紙ずつ提供していただき、常に新聞がある状況をつくった。閲覧場所は児童昇降口に長机を 4 台置き、紙面を広げてもゆっくり見られるように工夫した。登校してきた児童がカバンを背負ったまま新聞を読んだり、休み時間に読んだりする姿が多く見られた。

2 各学級の新聞活用の実態

- 1年生・・・新聞コーナーで4コマ漫画・写真さがし
- 2年生・・・新聞コーナーで見た記事・4コマ漫画の紹介・新聞づくり
- 3年生・・・新聞コーナーで見た記事の紹介、新聞づくり、子ども新聞コンクールへの参加
- 4年生・・・新聞記事のスクラップづくり、新聞づくり、日記の見出しつけ
- 5年生・・・新聞記事のスクラップづくり、新聞コーナーの気になる記事の紹介、新聞づくり
- 6年生・・・新聞記事の紹介、記事の要約、新聞づくり

3 新聞づくりを学ぶ

3・4学年が、信濃毎日新聞社の「出前授業：新聞づくり」を活用し、新聞づくりのコツを教えていただいた。おかげさまで遠足や社会見学のまとめがすらすらできるようになってきた。

4 新聞づくりを通して、まとめる力をつける。

新聞づくりを多く経験することで、読者側の気持ちにも立ったり、記事から見出しを考えたりすることで、まとめる力がついてきたように感じる。

IV 公開授業

学習指導案（NIE 実践指定校公開授業）

日時 平成27年11月30日（月）

単元名 「下條村じまん新聞を作ろう」

授業学級 4年2組

授業会場 4年2組教室（3階）

授業者 原 久美

1 単元名 「下條村じまん新聞を作ろう」

2 単元設定の理由

4学年は4月にクラス替えがあり、新しい仲間作りを始めて7ヶ月余りになる。すでにクラスに溶けこんで自分の居場所を見つけた児童もいれば、まだ周りの様子にあわせることができなくて、自分を出せず遠慮がちな児童もいる。また学習においては個人差が大きく、自分の考えを持つことができない児童や考えがあっても周りの反応を気にしすぎる余り発言を躊躇してしまう児童がいる。そのような児童も5月から総合的な学習の時間に取り組んできた「社会見学新聞作り」では、新聞社の方に直接教えていただいたり、自分のメモを振り返ったりしながら工夫して楽しく活動することができた。

そして、消防署見学、クリーンセンター見学、長野社会見学と3回の社会見学新聞作りを通して、自分が一番書きたい記事の選択やスムーズに記事を書くことができるようになるなど成長がみられた。しかし、自分だけで新聞作りを重ねていっても毎回同じようなまとめ方から脱することができず、自己満足に終わってしまっている現状がある。また、見学のまとめという同じことの繰り返しであることからやらされ感がある。さらに、同じ単元をもとに新聞を書いているので似たものも多く、読者側になって考えてみると意欲的に読もうという気にならず、新聞を作っても達成感が得られないでいる。

10月に売木小学校4年生と交流会を行い、「下條村じまん」を紙芝居や模造紙等で発表して大好評であった。売木小学校の児童や担任、他の先生からも褒められて気をよくした児童たちは、「せっかくならもっと多くの人たちに下條村じまんをしよう。」と言うことになった。そして、下條村の道の駅であるそばの城で「下條村じまん新聞」を配ろうと言うことになった。

今まで社会見学新聞作りで培った記事の書き方やレイアウトが役立つことはもちろん、インタビューや調査も必要になる。なによりも道の駅に来るお客さんという明確な読者を意識して新聞作りをすることは製作意欲をかき立てると考えた。

今まで行ってきた新聞作りを振り返りながら、さらに他者に向けて発信し関心をもってもらえるような新聞にするにはどうしたらよいか、グループの話し合いを通して考えを深め、視野を広げていくことが表現力を高めると願って本単元を設定した。

3 単元の目標

(1) 主目標

道の駅のお客さんに向けて、下條村のじまんを新聞にまとめて発信することができる。

(2) 具体目標

- ・みんなで考えた下條村のじまんから、新聞に適した記事を選択することができる。
- ・記事に必要な内容をインタビューしたり調査したりできる。
- ・図書館やインターネット等からテーマに沿った資料を集めることができる。
- ・他者（読者）に興味をもって見てもらえるような記事を書くことができる。
- ・他者（読者）の立場になって、よりよい新聞にするためのグループでの話し合いができる。

4 単元展開の概要

学習活動	時数	学習内容	教師の支援
1 「下條村じまん新聞」を作ることを知り、下條村のじまんを考えたり集めたりする。	3	○売木小学校 4 年生との交流会で使った下條村じまんを新聞にしよう。 ○他にも下條村じまんはないか考える。	○村内の人はもちろん、村外や県外の人にも見てもらえるようなじまんを考えるように促す。
2 紙面のテーマを考えよう。	2	○紙面別のテーマを考える。	○「下條じまん新聞」にふさわしい紙面別テーマを考えさせる。 ○読者（道の駅の客）を常に意識させる。
3 新聞を作ろう。	8	○調査やインタビューをし記事にまとめる。③ （カード作り・順番付け） ○班で相談して記事を校正したり見出しを考えたりする。③（本時） ○清書する。① ○印刷をして製本する。①	○文章を考えていくうちに、新たな疑問や調べたりないことにつづかった人は、さらに調査活動を行っても良い旨を伝える。
4 新聞を配ろう。	2	○道の駅で新聞を配る。 ○反省	○無理矢理配るようなことはしないように伝える。

5 本時案

(1) 主眼

下條村じまん新聞をテーマ別に班で作っている子どもたちが見出しを考える場面で、兄弟班の意見を参考にして伝えたいことが分かる見出しを考えることができる。

(2) 本時の位置（10／15時）

前時 紙面別にした記事の見出し（一つ）について意見を出し合う。

次時 それぞれの記事について見出しを決定し、新聞を完成させる。

指導上の留意点

- ・考えた記事を兄弟班（二人に一枚ずつ）に配布する。

(4) 展開

	学習活動	予想される児童の反応	指導 ★評価	時	備考
はじめ	1 前時に友だちに考えてもらった見出しや話し合いを振り返り、感想を発表する。	・伝えたいことが読む人にもバッチリ伝わったいい見出しができた。 ・記事を書くことに一生懸命であまり一番伝えたいことを考えてなかったことが分かった。	・見出しを考える上で大切なこと（記事の内容に合うこと・オーバーすぎないこと・長くしないこと・一番伝えたいことを書くこと・興味を引くこと等）の確認。	7分	振り返りカード配布
	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> [学習問題] トップ記事の見出しを班で考えよう。 [学習課題] 兄弟班が考えてくれた見出しを参考にして自分の班の見出しを考えよう。 </div>				
	2 紙面別にした記事の見出しを、お互いの班で考えあう。（記事を読む・見出しを考える）	・一番伝えたいことはどこに書いてあるのかな？それを見出しに持ってくればいいんじゃない？ ・写真や絵に合ったような言葉を見出しにすればいいんじゃない？	・記事をよく読んで、記事を書いた人が「どんなことを伝えたいのか」を感じ取り、それに一番合う見出しを考えることが大切である、という学習を想起させる。	18分	各班の紙面配布 ワークシート配布

な か	3 考えた見出しを兄弟班で発表し合う。	<ul style="list-style-type: none"> ・何を一番に伝えたいのかよく分からないから聞いてみようよ。 ・ぼくたちは〇〇という見出しを考えました。理由は〇〇だからです。 ・あ～そうか。こういう見出しもいいな。 	<ul style="list-style-type: none"> ・読んでも分からないことや疑問に思うことは、兄弟班に聞いても良いことを伝える。 	5分	
	4 兄弟班が考えてくれた見出しを聞いて、自分の班で話し合い見出しを決定する。	<ul style="list-style-type: none"> ・私たちの思いがいまいち伝わらないんじゃないかな。それよりもこういう言葉の方がいいな。 ・ぼく達の班は〇〇という見出しになりました。 	<ul style="list-style-type: none"> ・兄弟班で考えてくれた見出しを参考にしながら班で検討する。 ・伝えたいことが分かる見出しができたことを賞賛する。 	10分	
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;"> <p>★友だちの意見を参考にしながら「伝えたいことが分かる」見出しということに気がつけて考えることができたか。</p> </div>					
まとめ	6 感想を書き、発表する	<ul style="list-style-type: none"> ・自分たちでは考えつかなかったような見出しを考えてくれてうれしかったです。 ・みんなが考えてくれていい見出しになってうれしかったです。 		5分	振り返りカード配布

6 紙面別テーマ

- (1) 食べ物 (そば)
- (2) 食べ物 (遊牧館のヨーグルト)
- (3) 下條歌舞伎
- (4) 下條村の伝説
- (5) 奇跡の村
- (6) 峰竜太
- (7) 表紙
- (8) 裏表紙 (地図・編集後記)



7 本時の様子と下條じまん新聞が完成して



伝えたいことが分かる見出しを考えることをめあてに行った授業であったが、いい見出しと悪い見出しの見分けがつかない子どもたちであったので、事前に学習しておく必要があったかもしれない。しかしながら、子どもたちは内容を端的にまとめた見出しを一生懸命考え、兄弟班に感想を聞いたり意見を言ったりして意欲的に取り組んでいた。

完成した下條じまん新聞を、3月15日に役場やそばの城(道の駅 信濃路下條)に配布した。そばの城では、観光客がいて、各自が手渡した。恥



ずかしがる児童もいたが、観光客に「めずらしいもんもらった。」と大変喜ばれ、下條じまん新聞を作ってよかったという充実感に満ちていた。また、保護者に配布したり校内展示したりした。「すごい」「がんばったね。」などたくさんの感想や意見をもらい大喜びの児童たちであった。

8 研究のまとめ

- (1) 児童が新聞に触れる機会をつくることで興味関心を高めることができた。
- ① 日刊紙だけでなく他校の手作り新聞や子ども新聞コンクールの入選作品も展示することで興味関心が高まった。
 - ② 広いスペースをとることでゆっくり読むことができた。
 - ③ 全学級が新聞を活用することで全校で取り組む一体感が生まれた。気になるニュース等を紹介することで時事問題に詳しくなった児童もいた。
- (2) 新聞づくりを学んだことですらすら新聞作りができるようになってきた。
- ① 子ども新聞コンクールに参加して一層新聞づくりが楽しくなった。
40名の参加で地方入選8名、県入選1名
 - ② 読み手を意識した見出しやレイアウト、カラー装飾ができるようになってきた。
 - ③ 記事にインタビューや調べたことなどを取り入れるようになってきた。
- (3) 新聞づくりを重ねることで表現力（まとめる力）を付けることができた。
- ① 決められた空間に記事を書くことで自然に要約ができるようになってきた。
 - ② 見出しを考えることでまとめる力が付いてきたように思う。
 - ③ 読み手を考えてのレイアウト・見出しの付け方が上手になった。

9 今後の課題

- (1) 本年度はとにかく新聞になれようという手探り状態で進めてきた。今後は1年次の成果を活かしながら、さらに新聞活用を進めていくことが課題となる。
- (2) 本年度は、目的を持った活用C「新聞を作る」を主に進めてきた。4年2組の実践を他の教室にも広げていきたい。
- (3) 目的を持った活用A「新聞で学ぶ」、目的を持った活用B「新聞を学ぶ」についても考えていきたい。